

# 厚生委員会資料

令和5年8月18日

調査事項件名	頁
1 糖尿病対策に関する調査について・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2

(衛 生 部)

# 厚生委員会資料

令和5年8月18日

件名	<b>糖尿病対策に関する調査について</b>
所管部課名	衛生部こころとからだの健康づくり課
内容	<p>区では平成25年度から、健康あだち21（第二次）行動計画のもと「足立区糖尿病対策アクションプラン」を策定し、糖尿病対策に重点を置いた取り組みを進めてきた。ついては、10年間の主な取り組み結果を報告する。</p> <p><b>1 主な評価と今後の方針</b></p> <p>(1) 主な評価</p> <p>ア 10年間の取り組みにより、健康寿命の延伸及び健康格差の縮小、特に女性の健康寿命は、東京都との差が2.0歳から1.6歳に縮小するなど一定以上の成果が得られた。</p> <p>イ ベジタベライフを推し進めたことで、その他の喫煙習慣や健診受診率、運動習慣、主観的健康観など健康意識や行動にも良い影響が現れている。</p> <p>(2) 今後の方針</p> <p>ア 20歳代から30歳代の男性の糖尿病要指導者が一定数あり、子どもの頃からの望ましい生活習慣の定着及び働き世代へのさらなる啓発が必要である。</p> <p>イ 健康あだち21（第三次）行動計画及び糖尿病対策アクションプランの策定に合わせ、地域保健、学校保健に加え、産業保健分野の取り組みを強化し、働き世代の健康づくりを推進することで、引き続き健康寿命の延伸をめざしていく。</p>

## 2 糖尿病対策の主な取り組み結果

(1) 健康寿命が約2歳延伸

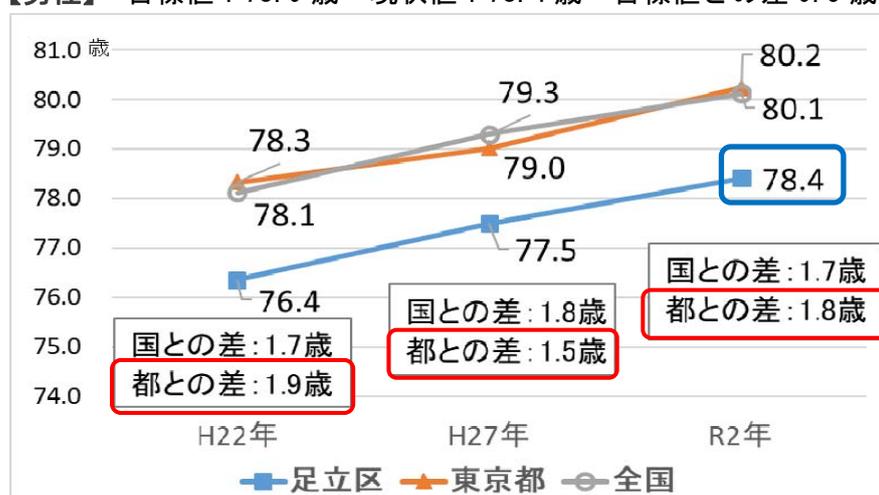
平成22年と令和2年を比較すると東京都との差は

男性1.9歳→1.8歳(0.1歳縮小) 女性2.0歳→1.6歳(0.4歳縮小)

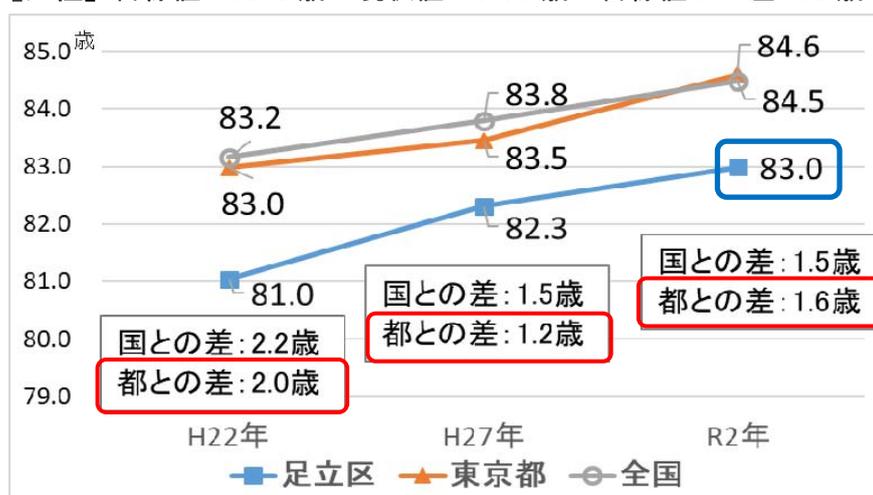
令和2年の健康寿命<sup>※</sup>は男性78.4歳、女性83.0歳となり、平成22年からは男女ともに約2歳延伸し、平成27年からは男性0.9歳、女性0.7歳延伸した。

足立区と国・都との健康寿命の比較

【男性】 目標値：78.9歳 現状値：78.4歳 目標値との差0.5歳



【女性】 目標値：83.3歳 現状値：83.0歳 目標値との差0.3歳



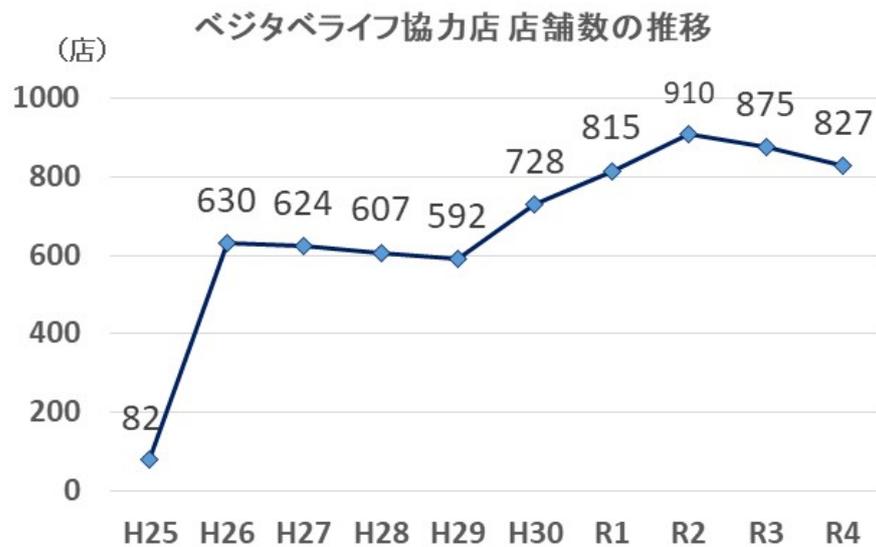
※ 日常生活動作が自立している期間の平均（厚生労働科学研究の健康寿命算定プログラムから足立区で算定）

(2) 糖尿病対策3つの基本方針に基づく取り組み結果

ア 野菜を食べやすい環境づくり

(ア) あだちベジタライフ協力店及び民間企業との連携拡大

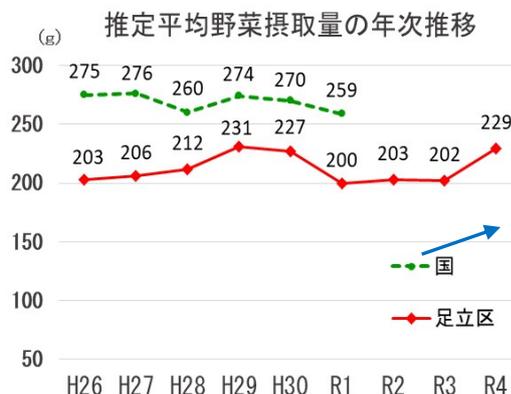
ベジ・ファーストや野菜たっぷりメニューを提供する「ベジタライフ協力店」は令和3年度以降微減となっているが、概ね目標の900店舗に達した。また、コンビニエンスストア、スーパー、大手食品メーカー、生命保険会社等との連携も拡大している。



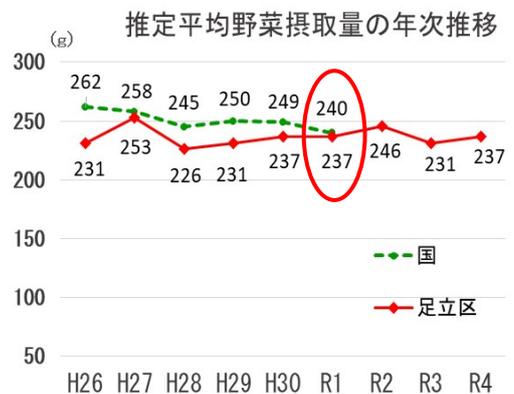
(イ) 推定野菜摂取量の推移

区が11月に実施している「簡易型自記式食事歴法質問票 (BDHQ) による食習慣調査」によると、令和4年度の推定野菜摂取量は233gであった (国の推奨は350g)。平成26年度と比較すると男性は26g、女性は6g増加した。また、女性については全国とほぼ同程度となっている。

**【男性】**



**【女性】**

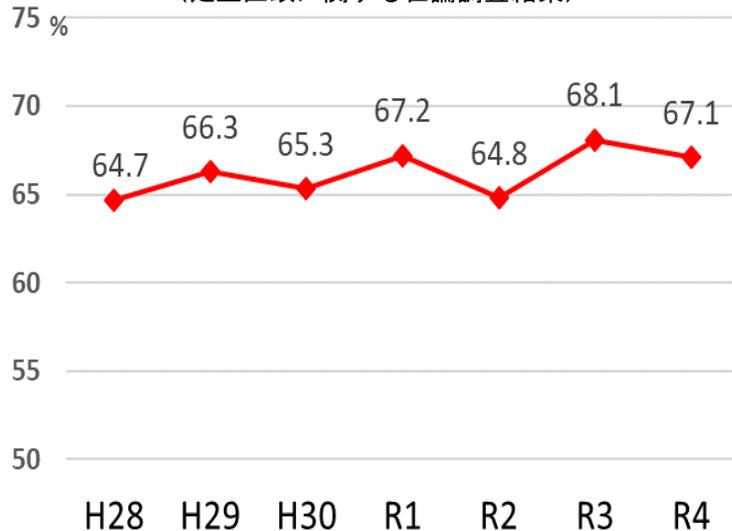


※令和2・3年度の国民健康栄養調査は中止された

(ウ) 野菜から食べる区民が増加

野菜から食べる区民の割合は約7割となっている。幼児期や小中学校を通じた継続的な取り組みにより、子どもを通じ家庭への波及も見られている。さらに、ベジタベライフ協力店の増加等により野菜を食べやすい環境づくりが整ったことも成果の要因と考えられる。

野菜から食べている区民の割合の年次推移  
(足立区政に関する世論調査結果)



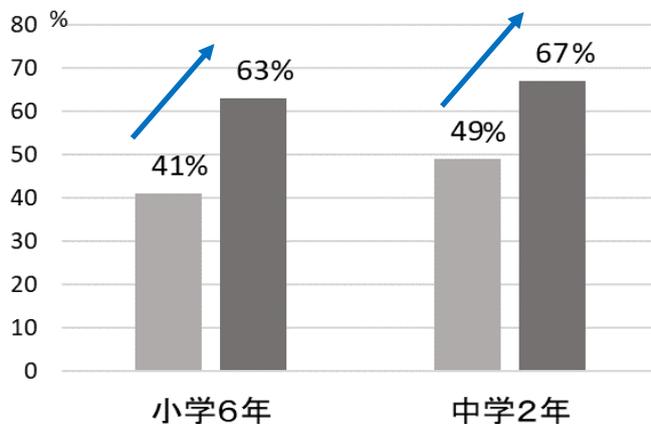
足立区世論調査結果

イ 子ども・家庭の良い生活習慣の定着

(ア) 野菜から食べる子どもの増加

おいしい給食事業を通じて「ひと口目は野菜から」を啓発した結果、給食時に野菜から食べる子どもは平成29年度と比較し、令和4年度は約20ポイント増加した。

給食時に野菜から食べる子どもの割合の年次推移(小6・中2)



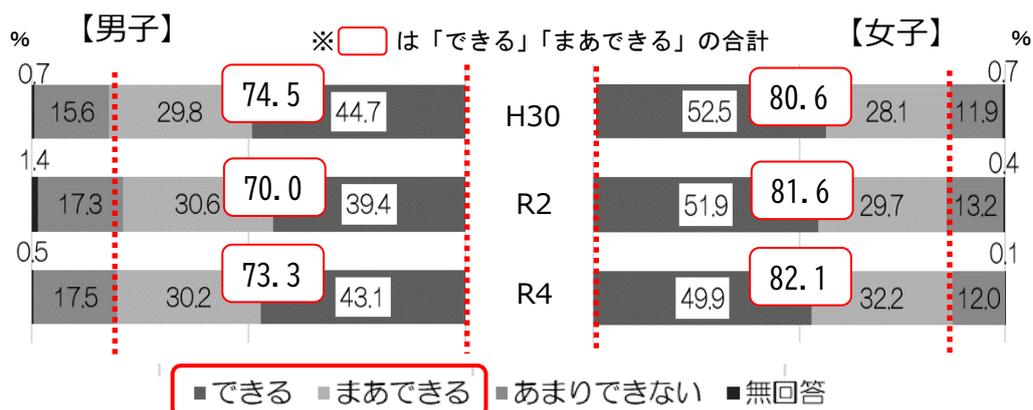
■ H29 ■ R4

足立区おいしい給食アンケート結果

(イ) ひとりで簡単な朝食が作れる子の割合 (約8割を維持)

学童保育室の調理体験教室や家庭科の授業との連携等を通じて「あだち食のスタンダード」の定着を図った結果、「ごはん・みそ汁・目玉焼程度の朝食が作れる」中学2年生は、令和4年度は男子が73.3%、女子が82.1%で、平成30年度から維持している。

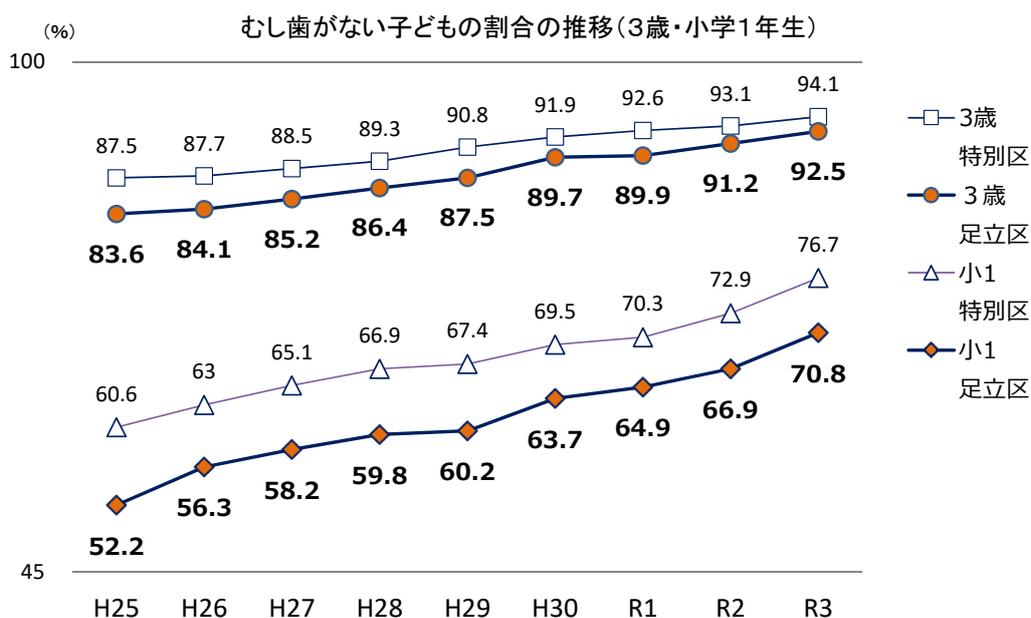
自分1人で、ごはん・みそ汁・目玉焼きを作れる割合 (中学2年生)



足立区子どもの健康・生活実態調査結果

(ウ) むし歯がない子どもの割合の増加

むし歯がない3歳児・小学1年生の割合は、平成25年と令和3年を比較すると特別区平均との差は、3歳は3.9%から1.6%と2.3ポイント縮小、小学1年生は8.4%から5.9%と2.5ポイント縮小した。



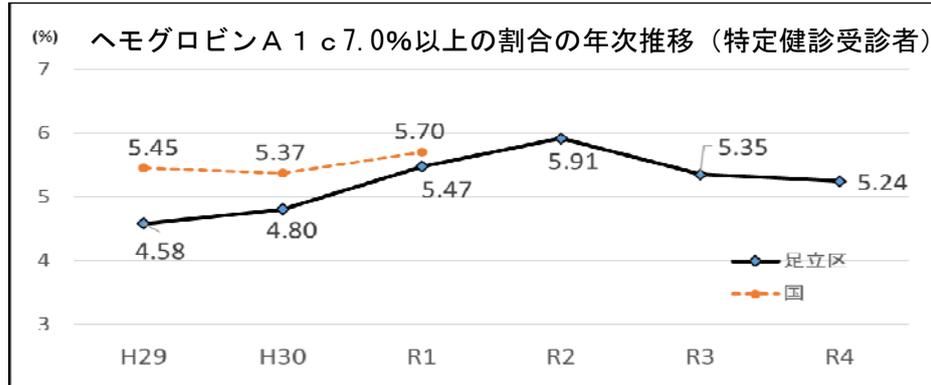
足立区3歳児健診・学校保健統計

ウ 糖尿病重症化予防

(ア) 糖尿病の重症化が減少傾向

特定健診受診者のヘモグロビン A1c<sup>\*</sup>値 7.0%以上の割合はコロナ禍で一時上昇したが、令和3年度から減少傾向にある。

※ ヘモグロビン A1c：過去1～2か月の血糖値の平均。  
7%以上で合併症の危険性が高まる。



足立区特定健康診査結果

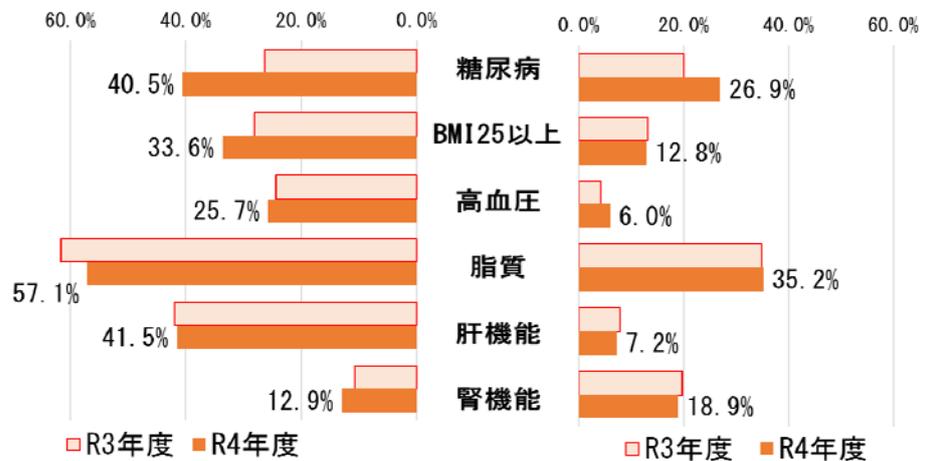
(イ) 40歳前の健康づくり健診 (男性の約4割が糖尿病要指導者)

健診を受ける機会のない18～39歳の若年者を対象に実施している40歳前の健康づくり健診の令和4年度結果では、男性の40.5%、女性の26.9%が糖尿病要指導者である。

令和4年度後半からオンライン申込を開始したことにより、受診者数が増加し、有所見者の早期発見につながったと考えられる。今後も継続して受診者へのフォローアップを丁寧に行っていくとともに、令和5年度から可能となったリマインドメールを活用し、継続受診につなげるよう勧奨を行っていく。

40歳前の健康づくり健診 要指導者割合

【男性】 R3年(n=263)、R4年(n=417) 【女性】 R3年(n=692)、R4年(n=873)

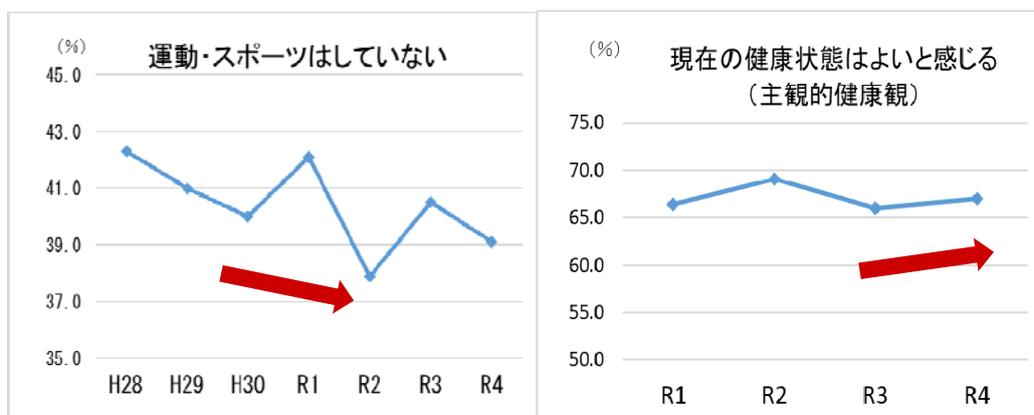
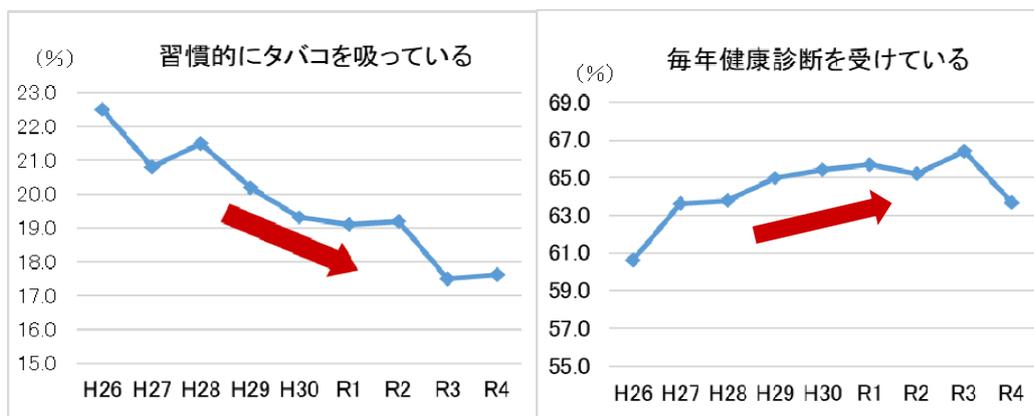


足立区40歳前の健康づくり健診結果

<参考> 40歳前の健康づくり健診 要指導者の基準値

項目	要指導者の基準値
糖尿病	ヘモグロビン A1c 値：5.6%以上、血糖値：100mg/dL 以上、尿糖（+）以上のいずれかに該当
高血圧	収縮期：130mmHg 以上、または拡張期：85mmHg 以上
脂質	LDL コレステロール：120mg/dL 以上、HDL コレステロール：39mg/dL 以下、中性脂肪 150mg/dL 以上のいずれかに該当
肝機能	AST (GOT)：31mg/dL 以上、ALT (GPT)：31 mg/dL 以上、 $\gamma$ -GT ( $\gamma$ -GPT)：51 mg/dL 以上のいずれかに該当
腎機能	クレアチニン：男性 1.01mg/dL、女性 0.71mg/dL 以上、GFR：60 (mL/分/1.73m <sup>2</sup> ) 未満、尿蛋白（+）以上のいずれかに該当

(3) ベジタベライフの取組みが他の健康意識や行動にも良い変化  
 糖尿病対策アクションプランが開始された平成25年度からの区民の健康意識と行動の変化をみると、喫煙習慣や健診受診率、運動習慣、主観的健康観などに良い影響を与えていることがわかる。



足立区政に関する世論調査結果 H26-R4